

令和 7 年度 会計室運営方針

(所属長 : 坂田 洋一)

「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」	
目標	適正かつ効率的な会計事務の一層の推進
使命	市民の貴重な財産である公金等を出納保管するなど本市の会計事務をつかさどる組織として、適正かつ効率的に会計事務を執行する。
令和7年度 所属運営の 基本的な 考え方	適正かつ効率的な会計事務に向けた人材の育成やバックオフィスＤＸに重点的に取り組むとともに、財務諸表等を活用できる人材を育成する。

重点的に取り組む経営課題

経営課題 1 適正かつ効率的な会計事務の執行

		5決算額	478百万円	6予算額	590百万円	7予算額	606百万円
課題認識	- 会計事務を適正かつ効率的に執行するためには、会計事務に携わる全ての職員が「会計事務に関する正しい知識を習得」するとともに、「会計における高いコンプライアンス意識を醸成」することが必要不可欠であり、これらを推進するための取組が必要である。 - あわせて、会計事務の一層の適正化・効率化に向けては、バックオフィス（内部管理業務）ＤＸを推進していくことが必要である。						
主な戦略 (課題解決の方策)	- 会計機関としての牽制機能も発揮しながら、会計事務に携わる職員に対して、研修・指導・会計調査等を通じ、必要な会計知識やコンプライアンス意識の不足による不適正な会計事務の発生リスクを低減し、適正かつ効率的な会計事務の執行を図る。 - 区会計管理業務の標準化の推進・自律性の確保に向けた連携・支援を行う。 - バックオフィスＤＸグランドデザインに基づき、関係所属と連携し、業務改革（ＤＸ）を実現しながら財務会計システムの再構築を推進する。						
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた 進捗度合を示した指標)	会計事務担当者研修及び審査事務研修におけるアンケートの「研修等の内容が理解できた」とする回答者の割合について、９０％以上を維持することをめざす。						
	各区の区会計管理者の取組の達成状況について、９０％以上を維持することをめざす。						
	バックオフィスＤＸグランドデザインを反映した財務会計システムの再構築をめざす。（令和９年度）						
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成					前年度実績	

経営課題2 財務諸表等を活用できる人材の育成

	5 決算額	4 百万円	6 予算額	5 百万円	7 予算額	5 百万円
課題認識	・新公会計制度導入以降の継続的な研修等の実施によって、財務諸表等を事業マネジメント等に「活用できる」と考える職員が9割に達している一方で、「活用できると思わない」と考える職員が一定程度存在することから、更なる知識や有用性に対する理解の浸透を図り、財務諸表等を事業マネジメント等に自律的に「活用できる」職員を一層育成する必要がある。					
主な戦略 (課題解決の方策)	・職員への広報・周知により、財務諸表等の活用方法の認知度及び使いやすさを高めるとともに、財務諸表等活用研修を継続的に実施し、新公会計制度に関する知識や有用性に対する職員の理解の浸透を図る。					
アウトカム 指標 (経営課題の解決に向けた 進捗度合を示した指標)	・財務諸表等活用研修におけるアンケートの「事業マネジメント等に活用できる」とする職員の割合について、9割の水準を維持することをめざす。					
アウトカム 指標の達成状況 (定量評価)	7 年度実績と達成状況 ※A：達成 B：未達成				前年度実績	

自己評価 (運営方針全体の 定性評価)	
---------------------------	--

今後の方針	
-------	--